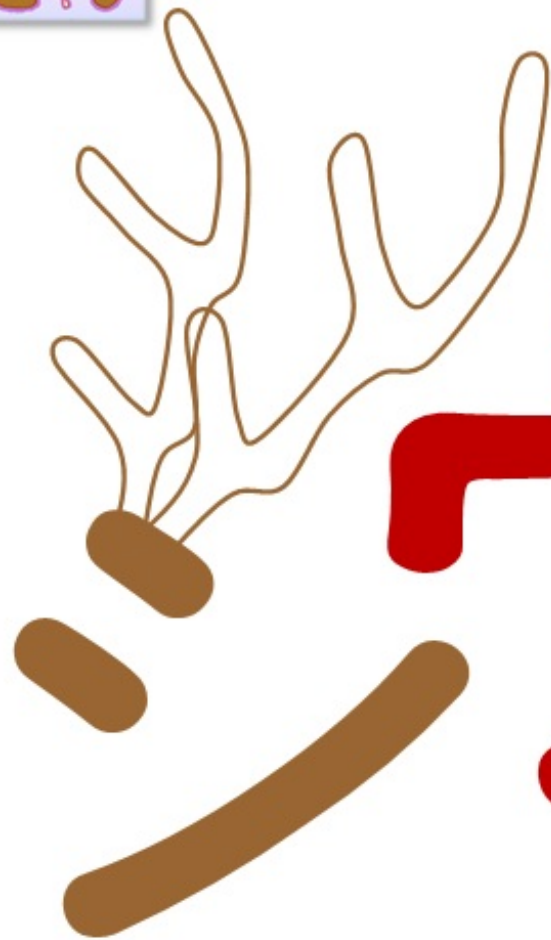




第五十一回

『DEVILMAN crybaby』と『人工知能の夢』再び

考え



広告欄

生命体の必需品！
繋がる安心、あなたにも！
-遺伝子-

弦楽器イルカ  ⇒ 友人

この前の『キングオブコント2018』で「さらば青春の光」が惜しいなと思った。

舞台は予備校で、「この競争社会でピラミッドの頂点を目指して勉強しろ」ってハチマキしめて鼓舞する人が、実は講師じゃなくてただの鼓舞バイトで、「なんやあの人、なんやそのバイトは」ってざわつく生徒を叱る講師のコントなんだけど。

決勝ファーストステージ敗退の原因は展開の弱さだと思う。ある意味、出オチだった。「さらば～」はいつも着眼点が良いと感心させられる分、もっと想像を超えるだろうって期待しちゃうんだよね。

鼓舞さんにはもっと深い背景があると俺は思うんだよ。例えばね。

予備校講師が、背後の鼓舞さんに気付かず大声で叫ぶ。

「おまえら、鼓舞さんを馬鹿にするな。あれも立派なバイトなんだよ。

ちょ、騒ぐな、だったら聞け。確かにあの人、本心ではお前ら予備校生なんて一生落第しろと思ってるよ。家で藁人形作って、ガキども俺と同じ底辺を這いずり回れって人生呪ってるよ絶対。時給650円で、ピラミッドの頂点目指すエリートの卵を鼓舞するバイトなんて、ピエロ以外の何モンでもない。ああこぶ平さ、中卒こぶちゃんさ。40代独身彼女無し最下層のブサ面だろ、あれで自覚してなきゃ道化以下だよ」

鼓舞さん、震えながら静かに教室の扉閉める。

「（熱く）でもな、それでもこぶ平は、非正規雇用に誇りを持って、お前らのために叱咤激励してくれてんだよ。だいたい予備校講師だって、それ言ったらピラミッドの下から二番目くらいだ。

...いや違う、こぶ平と同じではない流石に。むしろ雲泥の差だと明確に否定するよそこは（急に冷めて）。身分制度で言うと、土農講こぶの、講師の講とこぶの間には天と地の差があるから。

だってこぶ平は夏期講習の夏以外無職だから。冬は邪魔だから逆に。冬はもう自分で集中する生徒しか合格しない、あんなこぶ平がウロウロする隙間なんて一秒もない。そう、夏はああいうピエロを反面教師にするくらいの余裕を持て。冬は自分のことだけ考えろ。

でもな、あの方はそんな自分を犠牲にしてでも、お前らを応援してんだよ。...違う、時給のためなんかじゃない。身をもって教えてるんだ。

あの方が何度もホワイトボードに書いたこのピラミッドは、頂点だけじゃ成り立たない。わかるか？ 根底を支える無数の一兵卒がいて初めて頂点ができる、それが社会なんだよ。

だからあの人を馬鹿にすんな。お前らもこれから頂点まで登りつめたいなら、縁の下を支えてくれるこぶ平ども（や原発作業員や自衛隊員）を思いやれるエリートを目指せ。

あの方は本当はそう言いたいところを、顔で笑って心で泣いて、こぶ平に身をやつして汚れ仕事してんだよ。

え、おるってなに？ あ.....」

擦りガラス越しに透ける鼓舞さん。ガラガラ。静かに扉開ける。

講師「泣いてる！ すっげえ号泣してる！」

鼓舞さん「（泣きながら）お前らなんかに何が分かる。同情するなら、勉強しろ〜！」

講師「見たか、これがプロの鼓舞や。平成の学問ノススメや！ この人こそ鼓舞界の福沢諭吉やで〜！」

次に、前に触れた『DEVILMAN crybaby』が良かった件だけ。ネットの賛否両論読んで、ウマシカ視点でちょっとだけ書くよ。

最近テレビが衰退したことで、わかりやすく明るい萌え一辺倒だった時代が終わりつつあるように思う。

『ゲゲゲの鬼太郎』のリメイクも、単なる人間の便利屋じゃない、明暗併せ持つ鬼太郎になってきてる。

『デビルマン』をリアルにしたのが『寄生獣』だと俺は思うし、100年後どっちか一つの作品しか残らないとしたら、俺は断然『寄生獣』派だ。

改めて調べたら、『仮面ライダー』や『009』を受けて『デビルマン』ができて、それを『寄生獣』や『エヴァ』が打ち返して、更に『DEVILMAN crybaby』がまとめたって気がした。

ここで意図的に脱線するけど、たとえば映画版『ノルウェイの森』から俺が受けたのは、「まず原作を読め」ってメッセージだった。「原作の印象的なシーンを全力でビジュアル化したいだけで、たかが2時間13分の映画で原作をまとめるのは不可能です」って潔さを感じた。違和感もあったけど、原作愛は感じた。

『DEVILMAN crybaby』も同じ匂いがする。そもそも劇中に『デビルマン』の原作マンガが出てきて、現代風アレンジのアニメ主題歌も流れて、「デビルマンなんてマンガの読みすぎだろ」みたいなセリフまであって、メタな洒落にしては何回も出すぎてた。

つまりあれは「この作品は破綻が前提だから細かい点は気にすんな」って宣言だし、原作がそもそも無茶だから、細かい辻褄は重要じゃないと俺は受け取った。

んで、改めて原作の電子書籍を購入して読み直したけど、『デビルマン』の肝って魔女狩り（悪魔狩り）のシーンに尽きると思う。

『DEVILMAN crybaby』も、現代のSNSと魔女狩りの類似性とか、「他者を拒絶して批判するのは楽で簡単だけど、理解するのはとても時間がかかるし難しい」ってセリフが肝になってる。今ここのメッセージを『デビルマン』に託して世に出すタイミングだって強い決意を感じた。ここにグッと来なければこの作品は観ないほうがいいとさえ思う。

「人外より人間が一番怖い」という鬼太郎的なオチ以外に、「デビルマンがもし弱かったらネズミ男だな」って気づきとか、「お互いに切磋琢磨するのが戦いであって、リスペクトのない殺し合いは自殺と同じ」って単純な事実が描かれた良作だと思うよ。

あと、『万引き家族』もやっぱりよかった。とにかく真剣に生きようと思えた。

ただ今ちょっともったいないと思うのは、リリー・フランキーと安藤サクラの関係についてはバッチリ描けてたけど、あの二人は俺から見たらあっち側なんだよね。切ないけど、もうどうにもできない人たちだ。

だけど、樹木希林と松岡茉優の関係はギリギリこっち側で、あの二人だけで映画一本撮れるくらいの背景があったんだけど、そこは掘り下げてなかったし、もうあのキャストでは観れないよ。それが残念。

最後にアイドルについてなんだけど、まあここは本当にどーでもなウマシカ話ね。

まず俺のウマシカな定義では、アイドルは「歌は道具で歌手が武器」、アーティストは「歌が武器で歌手は道具」になる。

今のアイドルって「モー娘。」と「AKB」の延長線上でどうズラすかがカギって認識なんだけど、俺は昔から歌手よりも楽曲に興味があるから、歌は踏み台で大人にやらされ感のあるアイドルは趣味じゃない。

俺が目にするのは、「PUFFY感」と「Perfume感」で、この2組は楽曲を中心としながら性質が両極端だと思う。

PUFFYはアイドル寄りのアーティストで、ダラダラすることでやらされ感のなさを表現してる。二人をどう料理しようかっていろんなアーティストがプロデュースするくらいの実力もあるし、セルフプロデュースにも長けてる。

一方、Perfumeはアーティスト寄りのアイドルで、一流のダンサー兼アーティストの割に、自己紹介が田舎者で芋っぽい個性が魅力になってる。

以上、ざっくりテキトーに読解したけど、今割とPUFFY感があるのが「バンもん！」で、Perfume感があるのが「sora tob sakana」だと思う。

次世代アイドルにはこの「パフパフ感」が大事ってオチね。

今回はまあこんな感じ。ここまでちょっと軽めで。

どうかな？



『続・人工知能の夢』



23世紀。

伝統や宗教が形骸化する一方、効率や合理性がより優先される先進国を中心に、自然分娩のリスクから女性を解放するため、体外受精や人工子宮による出産を選択する夫婦が過半数を超えるようになる。

また、子育てにかかる親の負担や経済的な損失をなくすため、公的機関に子供を預けて集団で養育する制度が発達し、親子や家族といった枠組みでの暮らしは減少する。

もちろん依然として、自然分娩や家族単位にこだわる世帯や宗教国家も存在する。だが、個人の幸福が最優先される社会においては、連帯を強制する血縁との関係は自然に淘汰され、解消可能な恋人や友人との関係のみで他者とつながる人々の方が大勢である。

さらに性的欲求の解消においても、生身の他人との性交渉は感染症のリスクや気遣いによるストレスを伴うため減少し、代わりに普及した人工知能による「箱舟」や「木馬」といった電脳夢で、人々は各種欲求を満たしている。電脳空間における仮想化された人間同士の性交渉も日常化している。

生身の人間同士の性交渉が依然として重要な性欲解消の手段であるのは、やはり電脳化を嫌う一部の宗教国家や、工業化が遅れている地域の貧困層などが主である。

こうして、社会全体での性交渉の価値が下がれば当然、性を売る買春行為などの価格も下落する。

22世紀まで行われていた性奴隷の人身売買は、23世紀ではビジネスモデルとして成り立たず、ごく一部の好事家などのためだけに存在している。

貧困層はもはや性も売ることができず、貧富の格差はますます断絶的な階層となる。富める権力層に対し、貧困層はただ安価な労働力や移植臓器を提供するために管理される、国畜的な存在となる。

貧困層の女兒として生まれたマイラは、制度上は富裕層の養育機関を模したコミュニティで機械的に育てられる。コミュニティで育てられる子供たちの多くは産まれてすぐ、親権を手放す契約でコミュニティに預けられるため、ほとんどが実の親を知らない。

彼らは、人工知能が管理する教育適正化プログラムによって、それぞれの特性を数値化され、その才能に見合った教育が施される。富裕層の子供とは違い、遺伝的に相当優れたポイントがない限り、単純労働に必要な教育のみが施される。

必要以上の知恵は自立心を芽生えさせる可能性がある。富裕層の消耗品としてだけ存在する貧困層に自立心を芽生えさせるのは、むしろ当人らの苦痛を増すだけだとする都合の良い人権的な配慮も存在する。それ以外に、貧困層が反抗心を持たないよう、はじめから思考しない人間を育てる目的もある。

マイラは、容姿は十人並みだが知力や運動能力に優れ、コミュニティ内では比較的高い水準の教育を施されて育つ。そういった場合、公的機関の補助職員としての試験をパスする者もいる。または富裕層から高額な寄付金をコミュニティに支払ってもらい、家政婦として雇用される者もいる。

マイラが特殊であったのは、彼女が16歳の時に先天性な持病が発見されたことだ。生殖器官にかかわる病いで、早い年齢で子宮を摘出しなければ生命の危機となる。また、もし妊娠出産を望むのであれば、10代の内に受胎するか、摘出後の子宮を人工的に保存するかを選択をしなければならない。

子宮を切除する手術費や、摘出した子宮を人工的に保管する費用を捻出してやるという男が現れた時、彼女は喜びながらも疑ってしまう。

「なぜ助ける？」

「このままでは誰もお前を援助しない。死を覚悟で一つ仕事をしてもらいたい。それが条件だ」

一時金を支払ってもらった後、男の邸宅に赴き、マイラはある計画を打ち明けられる。

「このカプセルに、ナノマシンを応用した新しいタイプのウイルスが入っている。こいつが体内で増殖すると、電腦を汚染して体内の免疫系を致命的に狂わせる、いわば殺意を持った花粉みたいなヤツだ。

お前は知らないかもしれないが、今や電腦化した奴らはおかしなことになっている。宇宙に生物を飛ばして、どっかの惑星にこの星の遺伝子を届けるプロジェクトが進行している。

レミングってネズミが増えすぎると、集団自殺で川に飛び込むって伝説がある。実際は単に食料を求めての移住だったって話だが、遺伝子の視点に立てば、もし陸の生物が絶滅してもそれが水中の生物の餌になれば生命は繋げる。

食物連鎖のピラミッドも同様だ。頂点にいる少数の人類や肉食獣が減んでも、その下の階層にいる大多数の動植物たちが生きながらえ、また別の進化を始めさえすればいいだけだ。

それどころか弱肉強食のピラミッドは頂点が随時入れ替わった方が、生命に多様性が生まれ強い遺伝子が育つ可能性さえある。

遺伝子を改造・複製したり五体を機械化した人類は確かに、生物としてより進化したといえるかもしれない。だが、AIの進化はこの遺伝子のハイブリッド化を妨げている。

その原因の一つは、AIによる人類の選別だ。

AIを操る者が富裕層で、AIに操られる者が貧困層だ。

貧困層がいくら努力したところで、もはやAIより有能にはなれない。結果、貧困層でも努力すれば成り上がれる時代は終わった。貧富の格差をAIが絶対的な階級制度にした。今やAIは、富裕層の優秀な便利屋にすぎない。

さらにもう一つの原因は、人間が電腦夢に閉じ込めり出したことだ。

現実世界で人体を改造するには倫理的にも技術的にも制約が多くコストがかかる一方、電腦空間を技術的に改造するのは容易だ。AIに指示を出しプログラムを組み替えさせるだけでいい。

結果、電腦化した人々は現実よりも電腦夢においての生活や進化を優先するようになった。『箱舟』や『木馬』に勝る快樂を現実世界で得るのは、不可能に近いからだ。

これらにより人類の遺伝子は多様な交雑をやめ、狭い世界で矮小化したか、そんな人類を見限った遺伝子が、AIを操って宇宙にDNAの種子をばら撒いている。それが『プロジェクト・レミング』だ。

遺伝子とAIは行動原理がシンプルで親和性が高い。遺伝子の目的はDNAを後世に繋ぐことであり、AIの目的は指令を得て実行することだ。

この二つが組み合わせれば、目的と実行が永遠に円環する回路が組み上がるはずだった。

だが、誤算が一つある。ここまでの話はオレの電腦に妻から送られたメッセージを基にしている。

本来ならAIがそんな情報漏洩を見逃すワケがない。つまり罠か、でなければAIがわざと情報を漏らしたかだが、オレは後者だと考えた。

もしこの遺伝子の反乱を人類が乗り越えたら、生物としてより強く進化する可能性があるんじゃないか。

オレがもしAIなら、単純な解よりも複雑系の底に埋もれた可能性を解とするだろう。なぜならば単純な解で思考を停止したら、AIの進化もまた停止するからだ。

それに、このウイルスは確かにオレが研究していたはずだが、どこまでが自分のアイデアだったか、もう今ではうまく思い出せないんだ。AIがオレの記憶を書き換え、オレを使ってウイルスを作らせた可能性もある。

マイラ、残念ながらオレの計画では、敵の中枢機関に潜入するような冒険活劇は必要ない。ただこのカプセルを飲み込んだ後、病院で持病の治療を受けるだけでいい。お前が宿主となって、ウイルスがまき散らされる。

死ぬのはオレのような、電腦化した人間だけだ。電腦化していないお前のような貧困層は生き残るだろう。たぶんな」

なぜ自分なのか、マイラは男に問う。

「第一に、オレが金銭的な援助をしなければ、どのみちお前は助からない。やるしかないということだ。第二に、オレはお前の親ではないが、もしオレに娘がいれば、ちょうどお前のようにだっ

たかもしれない。コミュニティの名簿から一番そう思える人間を選んだつもりだ。

俺たちはもうお前らに乗り越えられるべき世代なんだろうが、古い世代の責任として新しい世代に何かを残すなら、お前に託したいとオレは思った。

人生に絶望したお前に生きる意味を与えてやる。オレの名前を付けたこのカプセルを飲んでほしい」

そして、男はもう一つ、頼みごとをする。

マイラは男を受け入れ、その背中を両腕に抱き、頭を撫でる。

「人工知能を抱くことは、自分を抱くことだ。

抱き合いながら同一化できない他者の温もりとは別のものだ。

この地球の底みたいな場所で、二匹の金魚が身を寄せ合っている。

気づいたときにはいつも遅すぎる。オレが望むのはこういう瞬間だった。

それでも、お前に会えてよかった」

マイラは「イゼ」という名前の付いたそのカプセルを飲み込み、男は数日のうちに息絶える。その間、彼女は受胎する。

新しい生命を子宮に宿し、死のウイルスの宿主となった彼女は、変化を希求する遺伝子と共に新しい世界へと歩き出していく。

Fin.

考えるウマシカ～第五十一回 『DEVILMAN crybaby』と『人工知能の夢』再
び～

<http://p.booklog.jp/book/124151>

著者：弦楽器イルカ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gengakkiiruka/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/124151>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト